



令和6年産（5年播種）



麦類の生育概況 vol.1

埼玉県マスコット
「コバトン」

（令和5年12月8日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要 約

- ◎気象概況：11月の平均気温は上旬がかなり高く、月平均でも高かった。降水量は上中旬に降雨があったが、月間では平年並であった。日照時間は月間で多かった。
- ◎生育状況：播種作業は開始時期を遅らせたため平年より遅れているが、順調に進捗しており、出芽・苗立ちは良好である。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・播種作業：播種量を1～2割増やし苗立ち数を確保する。
 - ・排水対策：明きよの掘削が未実施のほ場は必ず実施し、排水路と連結させる。
 - ・雑草防除：播種後土壌処理剤が散布できなかったほ場では、雑草の種類と葉齢を確認し、適期に茎葉兼土壌処理剤を散布する。
 - ・病虫害防除：晩播ほ場では、なまぐさ黒穂病やヤギシロトビムシの発生リスクが高まるため、種子消毒を必ず実施する。
 - ・麦踏み：3枚目の葉が出たら、ほ場の土壌水分状態に注意して実施する。

1 気象の概況

11月の平均気温は、第1、第2半旬がかなり高く、第3半旬が低く、第5半旬が高く、第4、第6半旬は平年並であった。月平均では平年より1.1℃高く、特に、第1、第2半旬はともに平年差3℃以上高かった。降水量は、7日に10.5mm、17日に35.0mm観測された他は降雨が無く、月合計では平年比85%であった。日照時間は、第1、第4、第6半旬が多く、第2半旬が少なく、第5半旬がかなり多く、第3半旬は平年並であり、月合計は平年比116%であった。

2 生育の概況

（1）所内生育相

近年、暖冬傾向が継続しており、県内の生産実情に対応した情報を発信するため、本年から生育相調査においても、播種基準日を11月10日から11月25日に変更することとした。また、平年値も暖冬であった令和2～4年播種の3年平均に変更となるので留意が必要である。

小麦、大麦とも播種時の土壌は適湿であり、碎土が良好な条件で11月24日に播種作業を実施した。

所内生育相の耕種概要

品種名	播種量 (kg/10a)	施肥量(N:kg/10a)	
		基肥	追肥
さとのそら	6.0	6	4
彩の星	6.0	7	2

注1. 播種様式:シーダーテープによる条播(条間30cm)。

(2) 県内全般

11月の気温が高いと予報されたことから、播種開始時期をやや遅らせる傾向にあり、11月8日現在の播種作業は大麦2.0%（平成16.4%）、小麦0.1%（同7.6%）であった。11月12日以降気温が低下し、11月17日に35.0mmのまとまった降雨があったことから、一時、播種作業は停滞した。11月22日現在の播種作業の進捗状況は大麦48%（平成66%）、小麦36%（平成54%）と播種作業の進捗はやや遅れている（農業支援課調べ 平成は過去5年間平均）。

降雨前に播種されたほ場では、発芽、苗立ちが良好で初期生育も順調である。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

1か月予報では気温は高く、降水量は多いと予報されている（気象庁12月7日発表）。

3か月予報では、1、2月とも気温は高く、降水量は平成並か多いと予報されている（気象庁11月21日発表）。

(2) 生育予測

11月中旬までに播種されたほ場では、順調な生育が見込まれ、年内に麦踏が開始できる。また、降雨後に播種されたほ場でも、気温が高く土壌水分が確保されていることから、出芽苗成ちは良好と見込まれる。

4 今後取るべき技術対策

(1) 播種作業

12月播きの場合は、苗立数（100～150本/m²）を確保するため、碎土率を高め、播種量を1～2割程度増やす。ほ場が乾燥している場合は、播種後に鎮圧を行うことで均一な出芽を促す。なお、遅播きの麦は葉枚数が減少し、節間が伸びて倒伏しやすくなるため、施肥量はやや控える。

(2) 排水対策

近年しばしば発生するまとまった降雨に対応するため、まだ明きよの設置を行っていないほ場では必ず設置する。設置済みのほ場でも、排水路と連結されているか、播種作業などで埋もれていないか等を確認し、問題があればすみや

かに補修する。

(3) 雑草防除

播種後土壌処理剤を散布できなかったほ場や、麦の出芽や雑草の発生が始まったほ場では、雑草及び麦の葉齢、雑草の種類を確認し、適期に使用可能な茎葉兼土壌処理剤を散布する。

(4) 病害防除

水田転換畑や畑で小麦を連作している場合、コムギなまぐさ黒穂病の発生が懸念され、晩播によりそのリスクが拡大する。前年発生ほ場及びその周辺では種子消毒を必ず実施する。

また、ヤギシロトビムシも晩播により被害が拡大するので、前年発生ほ場では種子消毒を必ず実施する。

(5) 麦踏み

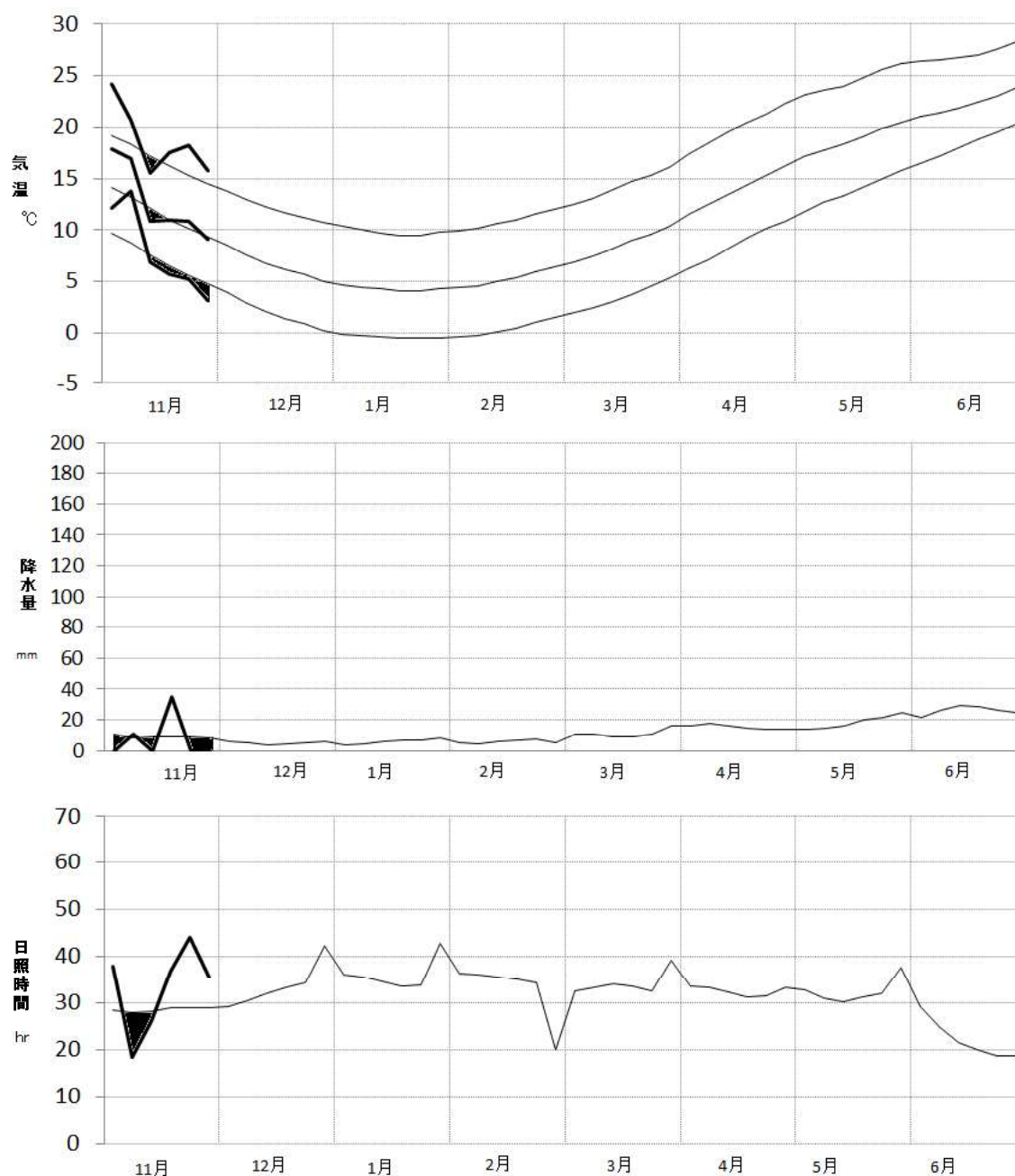
麦の3葉目が出始めたら、年内に1回ローラー等で軽めに麦踏みを行う。ただし、土壌水分が高い状態で実施すると土壌が締まり湿害を助長するため、天候や土壌の水分状態に注意して実施する。また、過乾燥の場合は、過剰な麦踏みでかえって生育を抑制する危険性があるため注意する。

解析・考察に用いた具体的数字

1 11月の気象表（熊谷气象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	17.9	14.1	24.2	19.2	12.2	9.7	0.0	10.4	37.9	28.4
2	16.9	13.2	20.7	18.3	13.8	8.7	10.5	8.5	18.4	28.0
3	10.9	12.1	15.6	17.2	6.8	7.6	0.0	9.0	26.0	28.2
4	11.0	11.0	17.6	16.2	5.6	6.5	35.0	9.0	37.0	28.9
5	10.8	10.1	18.2	15.3	5.3	5.6	0.0	9.1	44.1	29.0
6	9.1	9.4	15.8	14.5	3.1	4.8	0.0	8.3	35.6	29.0
平均	12.8	11.7	18.7	16.8	7.8	7.2	合計 45.5	53.5	199.0	171.6

注1. 半旬数値は熊谷气象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は气象台値。



令和6年産（5年播種）冬作期間気象図
（熊谷地方气象台日別データより作成）